

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	学校関係者記入欄
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校全体が落ち着いた雰囲気では、自分は伸び伸びと生活している。」のアンケートの生徒の回答が90%以上	「生徒がこれからの社会の変化にしっかりと対応していくために、本校では二数年、キャリア教育を推進している。生徒の様子から今年度は校内の状況もたいへん落ち着いており、来年度以降、生徒が自己肯定感をもって将来を拓いていけるよう、多くの体験をさせたいと考えている。」	A 6 B 5 C 0 D 0
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校全体が落ち着いた雰囲気では、自分は伸び伸びと生活している。」のアンケートの生徒の回答が70%以上	「ICTにおける社会の変化への対応はタブレット活用など成果を上げていると思われすが、従来の意味でのコミュニケーション能力について現状を知りたいと思いたす。」	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3	「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校全体が落ち着いた雰囲気では、自分は伸び伸びと生活している。」のアンケートの生徒の回答が40%以上	「12~15歳の生徒に「将来の進路や生き方について考える」とは難しい一面がある。そういう面があるからこそ、この多感な時期に「生き方」を考えさせる機会を多く作るべきだと考えます。これらも肯定的な回答が多くなることを期待します。」	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校全体が落ち着いた雰囲気では、自分は伸び伸びと生活している。」のアンケートの生徒の回答が40%未満	「授業がわかりやすく、充実している。」のアンケートに対する生徒の肯定的な回答は生徒が90%、保護者が87%であった。前年度の結果と比較してもほぼ変わらず高水準であった。今後も今までより、生徒がICT機器を学習のツールとして活用できるように指導を行う。	
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	「授業がわかりやすく、充実している。」のアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	「授業がわかりやすく、充実している。」のアンケートに対する生徒の肯定的な回答は生徒が90%、保護者が87%であった。前年度の結果と比較してもほぼ変わらず高水準であった。今後も今までより、生徒がICT機器を学習のツールとして活用できるように指導を行う。	A 7 B 4 C 0 D 0
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2	「授業がわかりやすく、充実している。」のアンケートで生徒・保護者の回答が70%以上	本校は若手教員が多く、外部の研修や授業観戦等に積極的に参加する意欲のある教員が多い。研修等で得た知識や技法を校内で還元し、さらに指導力を向上させていく。今年度はすべての教員がICT機器を使った授業を実施した。教科や学年間で資料や教材等の情報を共有し、活用を推進していく。	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以上の教員が働きかけた。	3	「授業がわかりやすく、充実している。」のアンケートで生徒・保護者の回答が40%以上	「また、授業観戦の機会と生徒の学習意欲の的確な把握、積極的な授業計画により、生徒の学習意欲の向上と、基礎学力の定着に努める。」	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	「授業がわかりやすく、充実している。」のアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満	「また、授業観戦の機会と生徒の学習意欲の的確な把握、積極的な授業計画により、生徒の学習意欲の向上と、基礎学力の定着に努める。」	
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するとともに、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	本校は「キャリア教育推進」をテーマとして、教育活動を通じて、生徒の自己肯定感の確かな把握と、教師と生徒の関係性を深め、進めを進める。管理職と生徒との関係も本校の特徴の一つとして教員と生徒の信頼関係の深さを知ることができた。生徒の肯定的な回答を見た。また、本校では90%の生徒が運動部の部活動に参加している。この点も、生徒の自己肯定感の向上に大きく貢献している。一方、不登校生徒の対応は大きな課題である。適応指導教室や教育センター等と、今後も効果的な連携をすすめ、状況の改善に努める。	A 7 B 4 C 0 D 0
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が70%以上	「また、本校では90%の生徒が運動部の部活動に参加している。この点も、生徒の自己肯定感の向上に大きく貢献している。一方、不登校生徒の対応は大きな課題である。適応指導教室や教育センター等と、今後も効果的な連携をすすめ、状況の改善に努める。」	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が40%以上	「また、本校では90%の生徒が運動部の部活動に参加している。この点も、生徒の自己肯定感の向上に大きく貢献している。一方、不登校生徒の対応は大きな課題である。適応指導教室や教育センター等と、今後も効果的な連携をすすめ、状況の改善に努める。」	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が40%未満	「また、本校では90%の生徒が運動部の部活動に参加している。この点も、生徒の自己肯定感の向上に大きく貢献している。一方、不登校生徒の対応は大きな課題である。適応指導教室や教育センター等と、今後も効果的な連携をすすめ、状況の改善に努める。」	
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が90%以上	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートに対して、84%の生徒が肯定的な回答をしており、前年度の数値の88%より下がりました。今後は、コロナ禍の制限下の中で、できる限りの体力づくりに努め、担任の丁寧な声かけや保護者との連携を続け、健康や体力の向上に努めていく。給食については、栄養士が毎日の献立を「通信」として各学級に配布したり、「食育だより」を発行したりするなど、食育の充実を図っています。また、本校では90%の生徒が運動部の部活動に参加しているが、来年度も引き続き、新型コロナウィルス感染症対策を遵守し、十分な活動を保証していく。	A 5 B 6 C 0 D 0
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が70%以上	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートに対して、84%の生徒が肯定的な回答をしており、前年度の数値の88%より下がりました。今後は、コロナ禍の制限下の中で、できる限りの体力づくりに努め、担任の丁寧な声かけや保護者との連携を続け、健康や体力の向上に努めていく。給食については、栄養士が毎日の献立を「通信」として各学級に配布したり、「食育だより」を発行したりするなど、食育の充実を図っています。また、本校では90%の生徒が運動部の部活動に参加しているが、来年度も引き続き、新型コロナウィルス感染症対策を遵守し、十分な活動を保証していく。	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が40%以上	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートに対して、84%の生徒が肯定的な回答をしており、前年度の数値の88%より下がりました。今後は、コロナ禍の制限下の中で、できる限りの体力づくりに努め、担任の丁寧な声かけや保護者との連携を続け、健康や体力の向上に努めていく。給食については、栄養士が毎日の献立を「通信」として各学級に配布したり、「食育だより」を発行したりするなど、食育の充実を図っています。また、本校では90%の生徒が運動部の部活動に参加しているが、来年度も引き続き、新型コロナウィルス感染症対策を遵守し、十分な活動を保証していく。	
		部活動の充実を図り、体力向上と心身の健康を促進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が40%未満	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートに対して、84%の生徒が肯定的な回答をしており、前年度の数値の88%より下がりました。今後は、コロナ禍の制限下の中で、できる限りの体力づくりに努め、担任の丁寧な声かけや保護者との連携を続け、健康や体力の向上に努めていく。給食については、栄養士が毎日の献立を「通信」として各学級に配布したり、「食育だより」を発行したりするなど、食育の充実を図っています。また、本校では90%の生徒が運動部の部活動に参加しているが、来年度も引き続き、新型コロナウィルス感染症対策を遵守し、十分な活動を保証していく。	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくりをします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	「本校に入学者が良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	「本校に入学者が良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	A 7 B 4 C 0 D 0
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しLOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	「本校に入学者が良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が70%以上	「本校に入学者が良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	「本校に入学者が良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が40%以上	「本校に入学者が良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	「本校に入学者が良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満	「本校に入学者が良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	
プラン6 学校も、家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートに対して、肯定的な回答は、生徒・保護者ともに78%で、生徒は増進であったが、保護者は前年度の91%から下がった。コロナ禍で、地域・保護者の方々に学校へ来てもらう機会が減少したことが原因と考えられる。	A 7 B 4 C 0 D 0
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が70%以上	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートに対して、肯定的な回答は、生徒・保護者ともに78%で、生徒は増進であったが、保護者は前年度の91%から下がった。コロナ禍で、地域・保護者の方々に学校へ来てもらう機会が減少したことが原因と考えられる。	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期1回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が40%以上	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートに対して、肯定的な回答は、生徒・保護者ともに78%で、生徒は増進であったが、保護者は前年度の91%から下がった。コロナ禍で、地域・保護者の方々に学校へ来てもらう機会が減少したことが原因と考えられる。	
		保護者や地域とともに地域行事等に参加させ、相互連携してボランティアマインドを養う。	4:学期1回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	1	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートに対して、肯定的な回答は、生徒・保護者ともに78%で、生徒は増進であったが、保護者は前年度の91%から下がった。コロナ禍で、地域・保護者の方々に学校へ来てもらう機会が減少したことが原因と考えられる。	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。